

Top Interview

トップインタビュー

— 変革に挑む —

まとめ／堀水潤一 撮影／平山 諭

学生時代は、 人生を支えるための大切な時間。 今やらなくて、どうする!

学

生時代は、その後の長い人生を支えるための大切な時間です。物事をもっとも吸収しやすいときであり、そのための環境が整っている時期です。時間があり、体力があり、意志さえしっかりしていれば、親や周囲の人たちからの理解も得られ、応援もされるでしょう。何より、道が無限に広がっています。学生には、自分がどれだけ恵まれた時期を過ごしているか気づいてほしいと思います。ひと言で言うなら「今やらなくて、どうする」ということ。その後の人生では、結婚や出産、健康面の不安、親の介護など、好きなことをしたくても、環境や立場がそれを許さないことは少なくありません。選んだ道を後悔しても転職を繰り返すわけにもいかな

いでしょう。だからこそ、学生のうちに見聞を広め、働き方、生き方にはさまざまな選択肢があることを知ってほしい。学生に対して門戸を開き、待っていてくれる企業も多くあります。本学院も、インターンシップや産学連携の取り組みをより充実させ、授業で修得した技術而就職へつなげていく活動をカリキュラムにもっと組み込んでいくつもりです。

その際、大手アパレルのみならず、本当に個性を大事にし、技術に裏打ちされた「オリジナル」を生みだしている中小企業の姿をみせ、就職にもつなげていきたいというのが私の考えです。ファッション業界は大手アパレルだけで成り立っているわけではありません。デザイナーに弟子入りし、下積みを続けるという

世界だけでもありません。中小ながら社会的な考え方をしっかりもち、規模の競争ではなく、こだわりをもって活動をしている企業はたくさんあります。そうしたところで地道に技術を磨き、オリジナルリテーターを生み出すための基礎力を身につけていくことは、同じような物や情報であふれている時代、大変な武器になると思います。

今後は3、4年次まで学びたくなるカリキュラムを組むことが課題です。女性の働き方が変わった現在、勉学に費やすべき時間は昔よりずっと長くなったはずですし、実際3年次以降伸びる学生も大勢見えてきました。単に技術の修得を目指すだけでなく、例えばコンテストにトライするなかで向上心を身につけ、進むべき道をじっくり考えられるようになってくれればうれしいですし、後輩の憧れの存在になってもらうことも期待しています。

私自身、ここに至るまで多くの寄り道をしてきました。今も地元長野において、自分のブランドの代表や系列校の校長職を兼任しています。教育という形、デザインという形、ビジネスという形を通して、また一人の女性として学んできたことを、なんらかの形で学生に示せたいいなと思っています。

院長 ドレスメーカー学院 岡 正子



【院長プロフィール】おか まさこ ●1979年、ドレスメーカー学院デザイナー科(現アパレルデザイン科)卒業。専門学校教師、副校長、カラーアナリストなどを経て2011年より現職。株式会社エコマコ代表取締役、OKA学園トータルデザインアカデミー校長。

【学校プロフィール】1926年ドレスメーカー・スクール(同年ドレスメーカー女学院)として創立。76年服飾専門課程の専門学校として認可。服飾造形科(2年制)、ファッションサービス科(2年制)、アパレル技術科(3年制)、高度アパレル専門科(4年制)、アパレルデザイン科(1年制)、デザインアート科(1年制)。全国に120の系列校をもつ。